

タンザニアの「なぜ」という疑問に対する理由（仮説・検証方法）を考えることができる。

氏名：中居 俊輝

学校名：青森県八戸市立白銀中学校

担当教科：理科

実践教科：総合的な学習の時間

時間数：15 時間

対象学年：1 学年

人数：75 名

【実践概要】

【1】 単元(活動)名：「自分たちが住む白銀地区の魅力を再発見しよう」

【2】 単元目標：



- ・ 探究活動を通して、タンザニアについてより深く知り、良さを発見することができる。
- ・ 課題を自ら設定し、探究する活動を通して、主体的に取り組む態度を育てる。
- ・ 協働的な活動を通して、課題を解決し、自己を高めようとする態度を育てる。


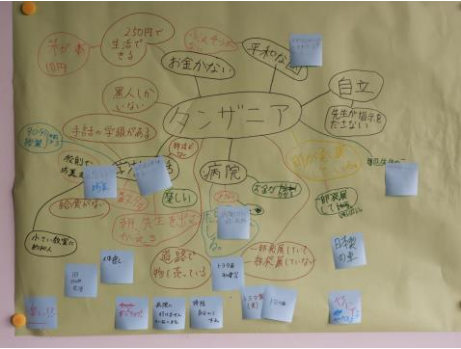
関連する学習指導要領上の目標：

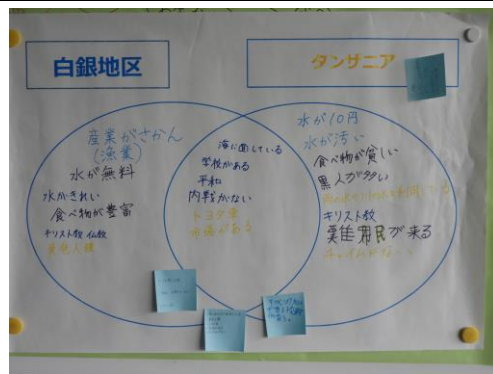
- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【3】 単元の 評価規準	①知識及び技能	① 白銀地区やタンザニアを知る活動を通して、自ら課題を設定し、解決しようと努力することができる。 ② 他の地域の産業や生活環境との比較を通して、情報を収集する技能やまとめる技術を身につけることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	① タンザニアについての話し合い活動、まとめ活動、疑問に対する検証活動を通して、コミュニケーション能力や表現力を高めることができる。 ② タンザニアとの比較や調査活動を通して、白銀地区の魅力を再発見する活動を通して、自分が育った地域を愛する心を育てることができる。
	③学びに向かう力、人間性等	① 白銀地区の魅力を再発見する活動を通して、地域の一員であるという自覚と誇りをもつことができる。 ② タンザニアについて探究する活動を通して、自ら学びに向かい、世界を視野に入れた考え方をすることができる。

<p>【4】 単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 総合的な学習の時間では、物事を多面的に見たり、視野を広げたりするために、ウェブマップやベン図を思考ツールとして活用し、自ら課題を見つけ、課題解決に必要な情報を友達と協力して収集、整理・分析、まとめ・表現する活動を通して、課題解決の成就感を味わわせ、生徒一人一人の自信につなげ、学習意欲を高めさせたいと考える。また、国際理解についてのアンケートを実施したところ、半数以上の生徒は、他の国、自分の国について知りたいという強い気持ちを持っていることが分かった。また、自分の国や世界について知る必要があると強く感じている生徒が8割以上いたこともあり、今回のタンザニアでの研修を生かし、世界に目を向けるきっかけをつくりながら、自分の地元の魅力を再発見できるよう指導していきたい。</p> <p>【単元の意義】 生徒が、世界で暮らす人々の様子を知ること、多様な価値観を尊重する心を育み、また、自分の住んでいる地域との比較から、自ら疑問を見つけ、探究学習を行うことで、それぞれの地域の魅力を再発見できるようになることを目的としている。</p> <p>【児童／生徒観】 本校1学年の生徒は、白銀小学校38名、白鷗小学校31名、他学区からの入学者6名の計75名である。全体としては、明るく素直な生徒が多い。男子は、元気はあるが思慮深さに欠け、女子に比べて、やや学力も低い。女子は、課題の提出率もよく、学習に対して意欲的で学力は男子より高い。男女とも、与えられた課題に対しては真面目に取り組むが、自ら進んで課題を見つけ、解決しようとする意欲が弱い。</p> <p>【指導観】 本校1学年では、1学期に「白銀地区には、何があるだろうか？」というテーマでグループ毎に探究活動を行った。そして、得られた内容の中から、個人テーマを設定し、個人で調べ、その内容をグループ内で共有し、白銀地区の良いところや課題を整理・分析し、地図上にまとめる活動を通して、白銀地区を知る活動を行った。2学期は、南部町・田子町・三戸町の農家での農業体験活動(1泊2日の宿泊学習)を行い、農業を知ることだけでなく、お世話になった農家の方々とのコミュニケーションを通して、農業地域の特色や特徴を知り、白銀地区との違いを考えるという学習を行った。そして、改めて「白銀地区の魅力は何だろうか」「白銀地区の課題は何だろうか」「白銀地区の魅力をPRしよう」という学習を行う。</p> <p>本時は、白銀地区とタンザニアとの比較を行い、白銀地区の新たな良さや魅力を再発見し、白銀地区のPR文を考えるという学習を最終目標とし取り組んでいく。この学習によって、国際理解という視点を取り入れながら、タンザニアについて疑問に思ったことを探求する活動や、横断的・総合的な学習や探究活動をし、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成していく。また、総合的な学習の時間では、「課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」という過程で学習させ、国語や社会、理科などの他教科との横断的な学習も取り入れながら、課題解決に取り組ませたいと考える。</p>
--	--

【5】単元計画（全 14 時間）			
時	『小単元名』 学習のねらい	学習活動	資料など
1	『SDGs とは何だろうか』 SDGs について知ることができる。	① 日本も世界に助けられていることについて話し合い、世界は互いに支え合っていることを理解する。 ② SDGs とは何だろうか ③ 感想 	
2	『世界のことに興味をもとう』 世界のことに興味をもつことができる。	① あっていい違いとあってはいけない違いについて考える。(SDGs に当てはめてみよう) ② あっていい違い、あってはならない違いの共通点は何か考えよう。 ③ 解決すべき課題にランキングをつけよう。 	
3	『世界の現状を知る①』 世界の現状を知ることができる。	世界の水不足について知る。 「水不足とは？」	
4	『世界の現状を知る②』 世界の現状を知ることができる。	世界の貧困について知る。 「貧困とは？」	
5	『世界の現状を知る③』 世界の現状を知ることができる。	世界の難民について知る。 「難民とは？」	

<p>6</p> <p>『タンザニアについて知る・考える・触れる①』</p> <p>タンザニアについて知ることができる。</p>	<p>① タンザニアへの海外研修参加への理由</p> <p>② タンザニアクイズ</p> <p>③ 様々な写真を見せる（イメージとは異なる写真など）</p> <p>④ 様々な写真を見て、タンザニアの現在の状況を写真から想像して文章化する。模造紙に記入。</p> <p>⑤ 写真や動画を見て、タンザニアの現在の状況を知る。 その都度、新たに情報を記入していく。</p>	
<p>7</p> <p>『タンザニアについて知る・考える②』</p> <p>タンザニアについて知った内容をウェビングマップに整理・分析することができる。</p>	<p>① タンザニアについて知り得た情報をそれぞれの視点ごとにウェビングマップに整理、分析させる。</p>	
<p>8</p> <p>『自分の地域との比較から、それぞれの共通点と違いを見つけることができる。』</p> <p>白銀地区とタンザニアとの比較から共通点と違いを見つけ、新たな疑問を見出すことができる。</p>	<p>① 白銀地区について調べた資料と前時で作成したタンザニアのウェビングマップを比較する。</p> <p>② ベン図を用いて、共通点や違いを見つけ、模造紙に書き込む。（整理・分析）</p> <p>③ まとめる。</p> <p>④ 他の班と結果を共有して情報を広げる。</p> <p>⑤ 新たに見つけた情報を模造紙に書き込む。</p> <p>⑥ 新たな疑問を書き込む。（個人→グループ）</p>	



白銀地区とタンザニアの共通点や違いを発見する活動を通して、疑問をいっばい書きだしてみよう！
 仮説 白銀地区は水がきれいだからタンザニアは汚いのか？
 仮説 タンザニアは自分も授業をするのか？
 仮説 タンザニアは国家試験 何年か(受かる確率) 卒業させないのか？
 仮説 タンザニアは授業料が高いのか？

9
本時


『自分の地域との比較から出たタンザニアの疑問・検証方法) に対する理由を考える①』



タンザニアに関する「なぜ」という疑問に対する理由(仮説・検証方法)を考えることができる。

- ① 前時で出た学習(タンザニア)の疑問を確認する。同じ疑問をもった人同士で集まり、グループをつくる。(1~3ブロック)

1ブロック	
ポテト班 中学への進学を難しくした理由は？	チームa なぜ、水は汚いのか
Rメーカー 国家試験はなぜあるのか？国家試験の内容は？	チームB 日本がタンザニアにしている支援はどのようなものがあるか
カイリキー お祭りにはどのようなものがあるだろうか？	チームC なぜ、発展している所と発展していないところがあるのだろうか
ミスターポテトヘッド なぜ、日本車が多いのか	ミスターポークチョップ なぜこんなにも環境が違うのだろうか

- ② 調査テーマ(疑問)に対する仮説の立て方、調査計画の立て方を説明する。
 ③ グループごとに調査テーマに関する調査計画を立てる。
 ③ 仮説と調査計画を発表し、全体で共有する。

10	<p>『自分の地域との比較から出たタンザニアの疑問・検証方法)に対する理由を考える②』</p> <p>タンザニアに関する「なぜ」という疑問に対する理由(仮説)を考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 前時の復習として、グループごとに調査テーマに関する調査計画を立てる。 ② 仮説を発表し、全体で共有する。(ワールドカフェ形式) ④ 新たな仮説とその検証方法や改善点を書き込む。 	
11	<p>『仮説の検証方法を考え予定を立てることができる。』</p> <p>調査方法を具体的に考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 調査の方法を具体的に考える。 ② 調査の計画を立てる。(いつ、どこで、何を使って) ③ 全体で共有する。 	
(冬休み課題)	<p>『仮説を検証する』</p> <p>仮説を検証することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 各調査テーマについて仮説を検証する。 	

			
12	<p>『検証結果のまとめ・発表』</p> <p>検証結果をグループでまとめ他者に伝えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 検証結果を全体で共有する。 ② ワールドカフェ形式での発表から、新たに学んだ情報を書き込む。 ③ 情報を整理する。 	
12・13	<p>『自分の地域との比較から、それぞれの良さを再発見し、PRしたい内容を考えよう。』</p> <p>自分の地域との比較から、それぞれの良さを再発見することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 1学期に行った白銀地区の調べた内容を思い出す。  <ol style="list-style-type: none"> ② 白銀地区とタンザニアの調べた内容を比較し、良い点を見つけ、模造紙に書き込む。(整理・分析) ③ まとめ(良い点や課題についてまとめる) ④ 他の班と結果を共有して情報を広げる。 ⑤ 一番の魅力を考える。 ⑥ 新たに見つけた情報を模造紙に書き込む。 ⑦ 特に自分の地域でPRしたい内容を考える。 	
14	<p>『誰にPRしたいか、また、PRの手法を考える』</p> <p>誰にPRしたいか、またPRの手法を考えることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① PRしたい人(ターゲット)を決める。 ② どのような手法でPRしたいのか考える。 ③ 伝えるためには、何が必要か考えさせる。 	

15	『自分たちの考えた PR 方法で作成。』 自分たちの考えた PR 方法で作成することができる。	① 自分の考えた、PR 方法で作成する。	
<p>【6】本時の展開（9 時間目）</p> <p>本時のねらい：タンザニアに関する「なぜ」という疑問に対する理由（仮説・検証方法）を考えることができる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10 分)	<p>1 前時で出た学習(タンザニア)の疑問を確認する。 タンザニアと白銀地区のウェビングマップを比較し、共通点や違いを見つける活動から出た疑問を調査テーマとする。</p> <p>2 調査テーマに対する仮説の立て方、調査計画の立て方を説明する。</p>	<p>・同じ疑問を持った生徒同士をグループとする。特別支援の子たちには、サポート役をつける。</p>	<p>タンザニアと白銀地区のウェビングマップ</p>
展開 (30 分)	<p>3 グループ毎に調査テーマに関する調査計画を立てる。 例 調査テーマ タンザニアの食文化の背景 なぜ、タンザニアの食文化ではウガリが主流なのだろうか？ 〈仮説①〉 ・タンザニアでウガリが良く食べられているのは、トウモロコシを中心とした産業が関係しているからだろう。 〈調査にあたって〉 ・タンザニアの農産物の生産量に関するデータを調べれば、豊富な食材がタンザニアの食文化を支えてきたことが分かるだろう。</p> <p>4 仮説と調査計画を学級のグループ毎に発表しあい、聞きあう。 黄色ふせん：質問・提案等</p>	<p>何をどのように調べれば、自分が立てた仮説が正しいのかどうかを検証できるのか、という所をメインに書かせるようにする。時間があつたら、調査方法を書かせる。</p> <p>今までの資料を自由に見て歩けるようにする。</p> <p>班長を残し説明させる。それ以外の班員は、自分以外の班の発表を聞きに行かせる。(班員はそれぞれ別の班へ)</p>	<p>今まで学習してきた資料を掲示する。</p>

	5 自分の班の内容の見直し・書きこみ。	自分の班の内容を見直して、書きこませる。 代表の班に発表させる。	
まとめ (10分)	6 全体で、良いグループの内容を共有する。		
<p>【7】 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>評価① 疑問に対する理由（仮説・検証方法）を考えることができる。（ワークシート）</p> <p>評価② グループ全体で、調査計画を作成することができる。</p>			
<p>【8】 学習方法及び外部との連携</p> <p>学習者同士の交流が生まれる学習方法・技法として、ベン図やウェビングマップを用いて、情報を整理分析し、そこから新たな発見や次につながる授業展開を続けた。また、ワールドカフェ形式やジグソー法を用いての発表方法を取り入れ、全員が授業に参加し、考察する場面を設けた事により、発信力や発表力を身につけさせていった。今では、生徒主体となり、自分達だけで話し合い活動や情報分析をできるようになった。</p>			
<p>【9】 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>認定 NPO 法人 IVY の小笠原直子さんを講師として招き、SDGs についての講演をしていただいた。SDGs を知るきっかけとなり、世界に対する興味関心が高まった。また、色々な教科で、SDGs に当てはめて考えることができるようになった。</p>			

【自己評価】

11. 苦勞した点	<p>授業中の生徒の反応や生徒の実態によって、その都度授業づくりを行っていった為、授業時数が多くなってしまった。時間割担当の先生との連携や学年の先生方との連携を密に取ることに苦勞した。</p> <p>テーマ毎に探究活動を行った為、情報量が多くなり、収集した情報が正しいかどうかを授業者側が判断することが難しかった。現地に行ったことのある人をゲストティーチャーとして呼んだり、あらかじめ授業者の知識量を増やしたりしないとかなり厳しく、苦勞した。</p>
12. 改善点	<p>周りの理解が必要であり、色々な人の理解を得るだけでなく、全体を巻き込んだ授業を実践していくのが大事。</p> <p>授業では、個人→小グループ→集団（学年全体）へという流れで行ったが、一番はじめの個人での考察の時間や、思考を広げる時間が非常に大事であることが分かったので、今後は時間をかけて深められるようにしていく。</p>

13. 成果が出た点

11月から1月の授業を通して、特に1.3.8.9の項目が大幅に上がった。
この結果から、世界に目を向けるきっかけにもなり、タンザニアと自分の住んでいる地域との比較や探求学習から自分の地域のことを好きになるだけでなく、魅力についても再発見することができる生徒が増えた。

質問	授業前8月					授業後1月			
	とても	まあまあ	あまり	全然		とても	まあまあ	あまり	全然
1 あなたは世界(人々の暮らし、経済、勉強の様子、環境の違いなど)のことをもっと知りたいですか。	12%	18%	55%	15%		32%	37%	26%	5%
2 あなたは自分の住んでいる白銀地区について知りたいですか。	11%	36%	28%	25%		25%	32%	33%	10%
3 あなたは自分の住んでいる地区は好きですか。	10%	15%	55%	20%	➡	35%	32%	25%	8%
5 あなたは将来、自分の住んでいる場所に帰ってきたいですか。	5%	37%	42%	16%		15%	45%	27%	13%
6 あなたは将来の自分の生き方について考えたことはありますか。	7%	36%	30%	27%		11%	43%	29%	17%
7 自分の国について知ることは自分にとって必要だと思いますか。	20%	34%	38%	8%		35%	42%	23%	0%
8 世界について知ることは自分にとって必要だと思いますか。	22%	18%	40%	20%		55%	28%	10%	7%
9 自分の地域に魅力はありますか。	11%	32%	37%	20%		49%	42%	9%	0%

14. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

年 組 氏 名 ()

総合的な学習の時間 ソークシート

授業内容(SDGsについて)

貧困や飢饉で水不足に悩まされたり、自然環境を守ったりして世界中の大きな問題の解決に向かうような大切な目標を立てるのには私達もSDGsの存在を知らなければいけません。このように、SDGsのことを知らない人が多いから、SDGsの認知度を上げていくことが2030年までに目標を達成するために大切なことだと思います。

授業内容(SDGsで振り返ってみよう)

あんな面白いことはない思い出があるときに、これに関心がある、いい思い出と思えばいい。しかし、私の関心は、いい思い出がなくても答えを出すことができません。これは、白人と黒人を差別して、いじめたり、命を奪われるなどの事件や問題があるからです。用紙の裏に書いておいた事件があるから、考えを交換するのが楽しかったです。

授業内容(世界の現状①水不足)

今の自分に5と同じくらいの子供の国が、他の国では、片道何時間かかっても水がなくて、大変な生活に、お困りかと思っています。

授業内容(タンザニアと白銀地区の共通点と違い)

共通点は学校があることです。しかし、白銀地区ではあまりないのは、教科書を使いません。タンザニアでは教科書が高価なため、教科書を使えない生徒が多くいることが違います。

授業内容(タンザニアについて知る)

最初は、高いビルとか車はないと思っていたけど、映像を見ると、ホテルは設備が充実していて、高いビルもたくさんあって、イオンはそんなに遠くありません。また、水筒には水を飲んでいる人が多くいることもわかりました。

授業内容(世界の現状②貧困) <ノートをあげる前の2枚>

あんな面白いことはない思い出があるときに、これに関心がある、いい思い出と思えばいい。しかし、私の関心は、いい思い出がなくても答えを出すことができません。これは、白人と黒人を差別して、いじめたり、命を奪われるなどの事件や問題があるからです。用紙の裏に書いておいた事件があるから、考えを交換するのが楽しかったです。

↓

授業を受ける前と後で、国際的な考え方はどのように変わったろうか？

授業を受ける前

貧困で苦しんでいる人が大勢いるから、大変ななと感じていた。

授業を受けた後

- ・貧困で苦しんでいる人々を助けるためにはどうすればよいのか、また、助けるために行っている世界の活動にはどのようなものがあるのか知りたくなった。
- ・自分も少しは力になりたいと思うようになった。
- ・今の世界の現状も知り、日本のゆうよくさへ気づいた。

私が調べた内容に関連した宗教ですが、タンザニアの国勢と共に新しい知識を得ることが出来ました。イスラム教は広がるタンザニアの情報はかなり少なかったですが、様々な視点で見るとおもしろいこともありました。タンザニアと日本はいろいろな違いがあると感じました。宗教においても生活においても、やはり国の特徴は違い、時には変えないといけない国の特徴を見つけたりしました。自分も少しは役立ちたいと協力したい、^{この国について}学ぶ時間も作りたいと思いました。調べ学習楽しかったです。

授業を受ける前と後で、国際的な考え方はどのように変わったろうか？

授業を受ける前

あまり興味がなく、少し偏見をもっていました。アフリカは貧しく発展していないというイメージがありました。

授業を受けた後

アフリカが日本と深い関係があることを知り驚きました。都市と地方で経済格差が大きいということを知ることができました。アフリカに対する見方を変えることができたので良かったです。

外国に関心する授業を受け、興味をもつことができました。アフリカと日本は、深い関係があるということや、都市と地方で経済格差が大きいということを知ることができました。アフリカは貧しく、発展していないというイメージがありましたが、アフリカに対する見方を変えることができたので良かったです。

総合的な学習の時間 1年 2組 氏名()

授業を受ける前と後で、国際的な考え方はどのように変わっただろうか？

授業を受ける前

海外外国に興味がなく、やる気が出ませんでした。
くにアフリカ大陸は、日本と少ししかかわりがないので、
「コースなど」で見てもいいかと思うのでした。

授業を受けた後

外国は、日本とぜんぜんちがう場所がありました。
日本は、ほとんど「発展しているけど」
タンザニアは、豊かではないところと、
ちがうのでした。

海外外国に興味がありませんでした。でも授業を受けると、学校に行けない子供がいる、環境問題が大切、た
りと日本はぜんぜんちがうことがわかりおもしろいと感じました。今回勉強したことを活用し、他の人に伝えて
おもしろいことについておもしろいと思います。また、タンザニアだけでなく、他の国にも見せてあげて、「国々」、日本とはちがう
ところを見せてみたいですね。もう一度勉強したいです。

15. 授業者による
自由記述

タンザニアという国をどう子どもたちに伝えていくべきか考えた時に、『発展途上国＝貧しい国』というイメージをもってほしくはないと強く思った。むしろ、平和で温かな人たちが多くいる国という印象の方が強く、「日本との共通点が多い」「人々が生き生きしている」「すごいなあ」と感じられる紹介ができればと考えて指導した。ただし、実際の現状や事実もしっかりと伝えるべきであるということも感じた。研修や色々な交流を通して学んだことを生かして、他地域と自分の地域を比較し、より良い所を知り、好きになるということを最終目標として授業を進めていった。研修を通して見て感じたことや学んだことインタビューした内容や動画・写真等を、海外の発展途上国と自分の地域を比較し、タンザニアの良さと自分の地域の良さ、共通点を見つけ出す教材として扱うことで、自分の地域に愛着がわくような指導に生かし、そして、更に他の国への理解や国際理解教育にも発展させていくことができた。今後も研修で学んだことを素材として「学びの地図」「ノートの見直し」「インプット・アウトプット」等々、振り返りの時間や意見の共有をすることでより深い学びにしていきたい。また、継続して国際教育を行っていきたい。

参考資料：

JICA 独立行政法人 国際協力機構 <https://www.jica.go.jp/mobile/index.html>